

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 4 月 27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694400013
法人名	株式会社 ハヤシ商事
事業所名	グループホーム ガーデンハウス忠元
所在地	鹿児島県伊佐市大口里1564番地5 (電話) 0995-29-5007
自己評価作成日	平成30年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は伊佐盆地の山並みと市街地が眺望できる高台にあり、すぐ近くには桜百選の忠元公園がある自然環境に恵まれた環境の中にあります。建物の周囲は一面に芝が広がる庭園で、ベンチが設置され、天気の良い日は外気浴や散歩を行っています。健康保持の一環として毎朝、ラジオ体操とレクリエーションを実施しています。建物は3層構造の床や2重ガラス窓サッシで暑さ寒さ対策が施され、木の温もりが感じられる造りで居室にはナースコールが設置してあり安心が確保されています。屋根にはソーラー発電を設置してオール電化を導入しています。又、同敷地内には地域密着型特養施設があり、慰問などがある場合は訪問して交流が行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○利用者や家族、自治会長、行政職員等が参加する運営推進会議では、毎回、出席者から活発な意見をもらうことができ、全トイレのウォシュレット化やセンサーライト設置の要望、事業所の掃除の頻度の確認など、積極的な意見交換がなされている。また、家族の意見を汲み取る工夫としては、家族会の事前にアンケートを取ったり、相談や意見を把握した際には、苦情相談受付書にて記録し、速やかに対応しており、家族への説明までを丁寧に行っている。

○管理者は日頃より職員の意見に耳を傾け、申し送り時や職員会議、年1回の個別面談でも意見を尋ねている。また、毎日の生活の中で感じたことや気付いたこと、他の職員に伝えたいこと等を「連絡ノート」に自由に記入して意見交換ができるようにしている。職員アンケートも随時実施しており、仕事の悩みや事業所の運営についての意見を出してもらい、運営に反映させている。

○接遇や認知症ケア、職場のマナー等の研修を職員会議に組み込み、一人ひとりの人格に配慮したケアやプライバシーの配慮について話し合っている。カルテや内服薬については、ロッカーなど目に付かない場所にきちんと管理されており、また、守秘義務についても慰問に来られた方にはもちろんのこと、職員間でも十分注意するよう日頃より確認し合っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識し、又、自身の振り返りができるように、朝礼時理念の唱和を行っている。	玄関や事務所に理念を掲げ、朝礼時に唱和するほか、毎月の職員会議では、安心、安全な生活を支援することができているかを振り返るようにしている。また、運営方針にあたる目標を毎年度職員全員で話し合い立てるなど、理念の実践に向けた取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、市の広報誌や自宅で収穫した野菜を届けていたり、回覧板を届けていたりしている。総会や美化作業にも参加し、地域の方々と交流している。	自治会に加入し、地区の総会や奉仕作業、敬老会等に参加している。利用者は地域の広報誌を毎号楽しみにしており、地域の情報を収集する為のよい手段となっている。事業所主催の夏祭りには、毎年地域住民が多数参加され盛大に行われており、地域の恒例行事になっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で事業所便りを配布したり、避難訓練、夏祭りなどに地域の方に参加していただき、理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し事業所の現状報告を行い、意見交換をしてサービスの向上に繋げている。	利用者や家族、自治会長、行政職員等が参加する会議では、事業所の活動内容や利用者状況の報告がなされるほか、センサーライトの設置や、すべてのトイレにウォシュレットを付けてほしい等、意見や要望が活発に話し合われている。出された要望については、速やかに対処し、サービス向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域密着型サービス連絡会、伊佐市医療介護連携会議等で定期的に事業所の現状報告をしたり、直接出向いて意見をいただいている。	行政職員とは、運営推進会議で定期的に顔を合わせるほか、介護保険関係の書類提出時や相談事がある時等に出向き面談している。また、グループホーム連絡協議会や行政主催の研修会でも意見交換を行っており、事業所の実情の理解と連携につながっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害について学習し拘束のないケアに取り組んでいる。言葉による拘束もないよう努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議で拘束の有無や言葉遣いについてを話し合うほか、内部研修も実施することで、拘束のないケアについて繰り返し話し合い確認している。また、自由な暮らしを支援するため、利用者の見守りをさり気なく行い、声かけについても行動を制限させることのないよう努めて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行い、虐待のない安心できる環境が提供できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開催し制度の理解に努めている。福祉サービス利用支援事業や成年後見制度を利用されている利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居希望者には事前に見学に来ていただき、パンフレットや事業所発行の便りなどで説明を行い、納得した上で入居していただけているようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケートを実施したり、日頃から意見要望等は面会時や対話の中で伺えるようにしている。可能な限り要望に添えるようにしている。	日々の会話や様子観察から利用者の思いを汲み取り、家族からは面会時や家族会で意見や要望を伺うようにしている。また、請求書送付の際に毎月の状況報告書と2ヵ月に一度作成しているホーム便りを同封することで、意見や感想、要望を聞き出しやすいよう配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常の会話の中で意見は気軽に述べてもらっている。個人面談や職員会議、申し送りの際にも意見を出してもらいサービスの向上に繋げている。	管理者は日頃より職員の意見をよく聞いており、運営のためのスタッフアンケート調査や人事考課を兼ねた個別面談、職員が自由に意見を記入できる「連絡ノート」を活用し、意見や要望を確認している。また、休日の希望にも可能な限り対応するなど、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務についてはできる限り職員の意向に添えるようにしている。又、入居者担当や月毎のレクリエーション担当を決め、やりがいを持って就労できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会以外にも希望者には外部の研修に参加してスキルアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊佐市医療介護連携会議や地域密着型サービス連絡会、県のグループホーム協議会等に参加し情報交換や勉強会を行い事業所の質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や生活歴、身体状況等をアセスメントして、できる限り本人の思いが実現できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望も伺いながら、事業所としてできる限り応えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所ができる事出来ない事を説明し、他の適切なサービスの紹介もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて、できることは一緒にしていただけるようにしてしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換を密にして、共に支援していけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご家族が気軽に面会に来ていただけるようにしたり、ご家族の支援もいただきながら、行きつけの美容院へ行ったりお墓参りなどしていただいている。	入居時に本人や家族、医療機関等関係者から、生活歴を詳しく聞き取り、電話や手紙の取り次ぎ、希望する馴染みの場所に出かけるなど、家族と職員が協力し合い支援している。また、友人や知人が面会に訪れた際は、お茶を出すなど、ゆっくりくつろげるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操やレクリエーションで入居者同士が交流し、お互いを気遣うことができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や施設を訪問したり、年賀状を出したりして、関係継続に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で思いを把握したり、個別に要望を聴いたりして意向に添えるようにしている。又、その内容は職員間で共有できるようにもしている。	本人の思いや暮らし方の希望を、日常の中で見せる表情から汲み取るとともに、家族や関係者からの意見も参考にしながら把握している。ぬり絵をしたり、日記をつけたり、個々が自由に過ごしてもらえよう、日々の生活を見守り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや病院からの情報以外にも、入所時にアセスメントを行い、今までの生活について把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寄り添い接する中で、できる事や興味のある事を見だし、生活が充実したものとなる環境が提供できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、本人、家族、職員、主治医の意見を参考にして、現状に即した計画書を作成している。	本人や家族の意向を基に、連絡ノートや支援経過記録、3ヵ月毎のモニタリング、主治医や看護師の意見も参考にしながらケアプランを作成している。身体状況に変化がみられた際や、本人、家族の意向に変化がみられた場合には、その都度ケアプランを見直し、担当者会議を経て関係者にプランを交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子やケア内容を記録している。又、職員連絡帳にも記録し職員間で情報共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪や買い物、外出等希望がある場合は、職員が対応したりご家族にお願いするなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の訪問や、ボランティアの慰問、近隣の幼稚園児との交流、ドライブなどで楽しい時間を過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の決定は本人やご家族の希望に添っている。必要に応じて受診付き添いを行い、情報提供や意見を伺っている。訪問診療や往診もしていただいている。	入居前の受診の経過を把握し、入居後も本人や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう、家族と職員が協力している。月2回の訪問診療や必要時には訪問歯科医による診療を受けることもでき安心につながっている。受診時の内容は連絡ノートに記録して情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前と午後健康チェックを行い異常の早期発見に努めている。状態変化時は報告相談を行い、医療機関やご家族へ連絡し受診援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関へ情報提供を行っている。入院先を訪問しご家族や医療機関との情報交換を行いながら回復状態に合わせて退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合についての意向を伺っている。事業所としてはできる限り意向に添えるようにしたいと考えている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。これまでに看取りの経験はないが、食事摂取状況や医療処置の必要性等、医師を含めた関係者による話し合いのもと、可能な限り意向に沿える支援をしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A E Dが設置してあり、急変時に対応できるよう定期的に勉強会を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、消防署や地域、ご家族の方にも立ち会っていただき、指導と協力をいただいている。	夜間想定を含む災害訓練を年2回実施しており、家族や自治会長の参加も得られ実施している。各居室は、緊急時の避難がしやすい掃き出し窓になっており、また、スプリンクラーや自家発電など設備も十分である。備蓄については、飲料水や食料など、3日分程度準備しており、一覧表にして管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個性を尊重し、プライドを傷つけない声掛けや対応に努めている。	接遇や職場のマナー、認知症等の研修を定期的に行い、言葉遣いやプライバシーを損ねない態度に気を配り接している。カルテや内服薬の管理の徹底、ポータブルトイレを使わない時は、目に付かない場所に置くななど細かな配慮がみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し、寄り添いながら希望を表出できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、無理強いせず、体調や自己のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は職員が要望に応じて定期的に行なっている。着替えの洋服などは選んでもらえるようにしている。化粧品の購入を依頼される方もおられ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの好きなもの等が提供できるように聞いたりもしている。又、できる方には下ごしらえや盛り付けなどお願いしている。	特に献立は決めておらず、当日、食べたいものを尋ねたり、冷蔵庫内にある食材を利用して調理している。高齢化に伴い、外食が難しくなっているが、餅つきやそば打ち、手作りのおやつなど食べる楽しみを大切にしたいと考え支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや減塩に配慮した個々にあった食事形態や器で提供している。食事量については過不足のないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け介助を行っている。必要に応じて歯科医の訪問診療もしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛けや本人の訴えに応じてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導につなげている。また、日中はトイレでの排泄とすることで、おむつやリハビリパンツに頼らない支援につなげている。これらの工夫については、職員全員が統一して支援できるよう、ケアプランに組み込んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事摂取量、排泄状況をチェックし主治医とも連携して服薬管理を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や個々に合った入浴方法で支援している。失禁等の汚染があった場合は、その都度シャワー浴や清拭を行っている。	基本的に週2回の入浴としているが、希望があればいつでも入浴は可能である。冬至にはゆず湯を提供し、気持ちよく入浴することができた。入浴後は、牛乳やポカリスエット、お茶など、好みの飲み物を提供し水分補給に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に体調に合わせて休息していただいている。空調や採光にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個々のファイルに綴りいつでも確認できるようにしている。変更があった場合は連絡ノートに記載して職員に周知し、観察するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや興味のあることを把握して、できることはしていただけるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	四季折々の景色や風物を楽しんでいただくためのドライブにお連れしている。ご家族がお墓参りや一時帰宅、花見等にもお連れしてくれている。	手作りのお弁当を持参して、季節の花見に出かけたり、日常的にドライブに出かけ、スーパーで買い物をするなど楽しく過ごしている。また、散歩やテラスでお茶を楽しむなど、屋内ばかりではストレスにつながるため、日光浴や外気浴で気分転換を図っている。年末年始やお盆に自宅に帰る利用者もいるなど、家族の協力も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として事業所でお金は管理している。希望の品は預かり金から購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される場合はかけたり取り次いだりしている。手紙が届いた場合は、職員が読んで差し上げたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を玄関や洗面所に置いている。季節感が感じられる作品を皆さんと一緒に制作し、それらを展示している。	リビングの天井は高く、天窓からの明かりもほどよくあり、気持ちがよい。また、季節の植物や利用者の作品が飾られ、和やかさも感じられる。ユニットは中庭を挟んだ構造となっているため、顔の見える関係で連携が図りやすい。これまでも廊下に手すりは付いていたが、手を添えるタイプであったため、しっかり握れる手すりに取り替えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓際に椅子を置いて気ままにくつろげるようにしている。マッサージチェアもあり希望者は利用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものを自由に持ち込んでいただき、生活しやすい空間づくりをしていただいている。	エアコンと電動ベッド、クローゼットが備え付けられ、これまで自宅で使っていた馴染みの品を自由に持ち込むことで、居心地のよい空間を作っている。掃き出し窓からの採光は十分であり、緊急時にも屋外に出やすい造りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーで、手すりが設置されている。トイレには分かりやすいように表示がしてあり、安全に生活できるよう工夫されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない